

storageの移行として以下の2点を行う。

- ・添付ファイルの移行
- ・WebMailの移行

移行の流れを下記に記載する。

● 添付ファイルの移行

ver60のstartpack.iniの設定値「STARTPACK_FILE_UPLOAD_SAVE_TYPE」の値を取得する

↓

保存タイプをもとにファイル構造を変更する

例.

ドキュメント管理を例にとり、説明を行う。

ver50のドキュメント管理でフォルダ構成が左下の通りで登録されていたとする。

左下の状態のとき、storageでは右下の通りに保存されている。

<ver50>

ドキュメントフォルダ構成	storage構成
Top -- フォルダ1 -- フォルダ2 -- フォルダ3 -- フォルダ4 -- ドキュメントB -- フォルダ5 -- ドキュメントA -- フォルダ6	storage/startpack/fsroot/{\$login_group}/document -- {\$folder_id} <- フォルダ1のid -- {\$folder_id} <- フォルダ2のid -- {\$folder_id} <- フォルダ3のid -- {\$folder_id} <- フォルダ4のid -- {\$document} <- ドキュメントBのid もしくは論理file -- {\$folder_id} <- フォルダ5のid -- {\$document} <- ドキュメントAのid もしくは論理file 名 -- {\$folder_id} <- フォルダ6のid {\$xxx}は変数扱いです。

ver60では添付ファイルの保持方法としてstorage構成方法を変更している。
変更後の構成方法は、フォルダ階層と同じ階層を持つのではなく、1つの階層ですべて管理を行う。
図示すると以下の通りとなる。

<ver60>

ドキュメントフォルダ構成	storage構成
Top -- フォルダ1 -- フォルダ2 -- フォルダ3 -- フォルダ4 -- ドキュメントB -- フォルダ5 -- ドキュメントA -- フォルダ6	storage/startpack/fsroot/{\$login_group}/document -- {\$document_cd} <- ドキュメントAのdocument_cd -- {\$file_id} <- ドキュメントAのfile_id -- {\$file} <- ドキュメントAのidもしくは論理file名 -- {\$document_cd} <- ドキュメントBのdocument_cd -- {\$file_id} <- ドキュメントBのfile_id -- {\$file} <- ドキュメントBのidもしくは論理file名 {\$xxx}は変数扱いです。

上記への変更作業を設定(保存タイプ)をもとに添付ファイルの調整という形式で行う。

※この変更作業をドキュメント管理、掲示板、営業日報、営業支援の顧客に付加されている添付ファイルで行う。

●WebMailの移行

特にWebMail ver51からver60へは仕様の変更がないため、そのままver51から必要なデータの移行を行う。

○移行方法

ver51:
storage/webmail/data/ログイングループ名/
配下のフォルダ・ファイル

↓

ver60:
storage/webmail/data/ログイングループ名/
コピーを行う。

上記のコピーによって、以下の4機能が移行される。

- ・個人情報設定
- ・ごみ箱フォルダ設定
- ・送信済みフォルダ設定
- ・振り分け設定

○webmailのフォルダ構成

ver60でWebmailが利用するフォルダ構成は以下の通りである。

storage構成
<pre>storage -- webmail -- data -- {\$login_group} <- ログイングループ -- {\$user_cd} <- ユーザコード -- address // アドレス帳 -- {\$group_cd}.adr <- グループコード -- group.conf -- dust // ごみ箱設定 -- dust.dat -- filter // 振り分け設定 -- {\$id}.conf <- 振り分け設定コード -- trans // 送信済み設定 -- trans.dat -- webmail.conf // アカウント設定 {\$xxx}は変数扱いです。</pre>